



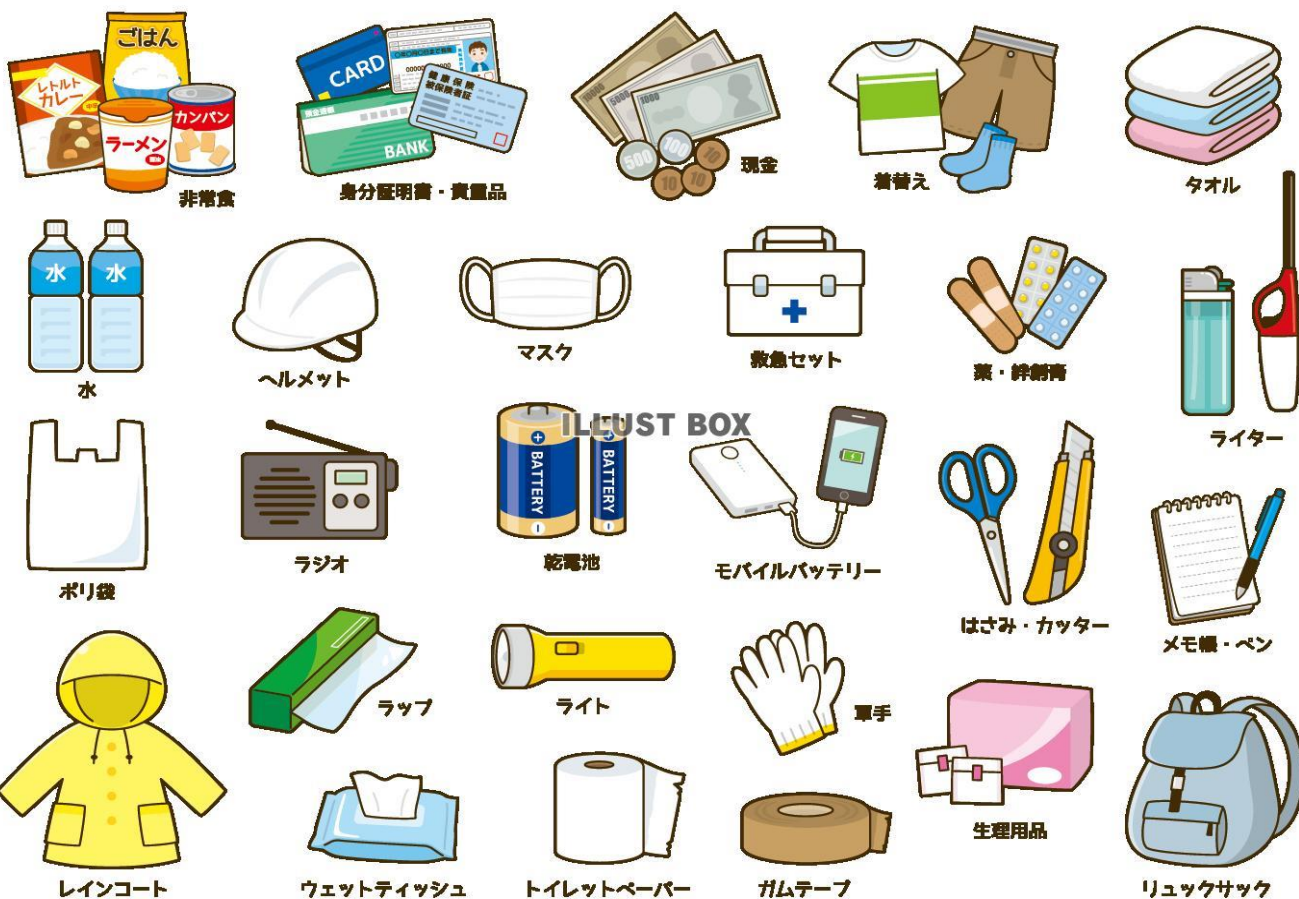
まだまだ暑い日が続きますが、幾分過ごしやすい日が増えてきました。元気いっぱい夏を過ごした子どもたちですが、夏の疲れが出やすくなる時期なのでゆっくりお風呂に入り、しっかり睡眠をとるなどして、体調を崩さないように気を付けましょう。

RS ウィルスや新型コロナウイルスの感染の流行も続いているので、発熱やその他の症状がある時は必ず受診をして頂くようご協力お願い致します。発熱後 24 時間経過してからの登園のご協力も重ねてお願い致します。また、引き続きマスクの装着のご協力もお願い致します。マスクは不織布の物が効果が高いとされています。

### 9月1日は防災の日、9月9日は救急の日です！

いざという時に慌てないために、ご家庭の非常持ち出し袋や救急箱・非常食や水・懐中電灯の電池チェック、また新型コロナウイルスも踏まえ、アルコール消毒やウェットティッシュ、マスクの準備を多めにしておくといいでしょう。オムツを付けているお子さんがいるご家庭は、オムツも用意もしておきましょう。子供はすぐに大きくなるので、オムツのサイズの確認も忘れずにチェックしてみてください。また、乳幼児のいるご家庭ではレトルトの離乳食や普段食べているおやつなどがあると、子どもは安心するようです。

## 防災グッズ・防災用品・非常用持ち出し品 一覧



☆子供の急な病気で困った時は！



 # 8 0 0 0 (小児救急電話相談) へ

- ・全国同一の短縮番号 # 8 0 0 0 にかけることで、お住まいの都道府県の窓口へ自動転送されます。
- ・小児科医師・看護師からお子さんの症状に応じた適切な対処の仕方や、受診する病院などのアドバイスを受けられます。
- ・実施時間帯：毎日 18 時～翌朝 8 時

☆今すぐ受診したい時は川崎市救急医療情報センター

 **0 4 4 - 7 3 9 - 1 9 1 9**

- ・急な病気になったりケガをして困った時に電話してみてください。オペレーターが適切な病院や診療所(医院)を案内します。
- ・24時間365日対応です。

※どちらも電話による限られた情報に基づく相談であり、直接、子どもの状態を見て行う診断・治療ではありません。  
あくまでも相談される方の参考としていただくためのものです。

※医療機関を紹介された場合は、必ず電話をかけてから受診しましょう。



## 救急車を呼ぶのはどんな時？



- ・意識不明、呼吸困難、頭・胸・お腹などの激痛、出血量が多く止まらない、広範囲のやけど、けいれんが止まらない、などの症状が重い場合です。

### ★熱性けいれんとは？

→生後6ヶ月～5歳位までの子供にみられるけいれんの一つで、発熱(通常は38度以上)をきっかけとして起こります。

<症状> 熱の上がり際に多く、突然意識がなくなり、白目を向いて身体をそらせるように硬くなり、手足をガクガク震わせ顔色が悪くなります。ただし、身体の力が抜けてボーっとして意識がなくなるだけの場合もあります。

<対処法> 1、まずは慌てないようにしましょう。

- 2、体を揺すったり、耳元で叫んだりしないようにしましょう。(刺激を与えない)
- 3、服を緩め呼吸を楽にしましょう。
- 4、吐いた物がのどに詰まらないように、顔を横向きにしましょう。
- 5、口の中に指やお箸、スプーンなどを入れないようにしましょう。
- 6、体温を測定し、けいれんが続いた時間、目・手足の状態(左右差)などを細かく観察し記録しておきましょう。
- 7、5分以上続く時や、意識がはっきりしない、短時間でも繰り返し起こる時は救急車を呼びましょう。

※昼間起こった時は、その日の診療時間内にかかりつけ医に診てもらいましょう。

夜間で症状が軽い時は、翌日にかかりつけ医に相談しましょう。



8月の感染症：手足口病 3名・ヘルパンギーナ 2名・RSウイルス 9名、受診： 0名

◆ 9月16日に歯科検診を予定しています。